

小さな思いやり

B 親切、思いやり 小学校 中・高学年、中学校



ねらい

トーストの熱気でパンが湿らないように、スプーンをパンの下に差し込んだ店員さんの思いやりの行為をとおして、日常生活の中にある小さな思いやりに気づき、すすんで親切にしようとする気持ちを高める。

資料提示の工夫

初めに写真の下半分スプーンの部分を隠して提示する。隠した部分がどうなっているのか子どもたちに予想させてから、スプーンを見せる。

思考を促す
発問

※「先日、お気に入りの喫茶店でモーニングを注文したら、ちょっとうれしかったことがあります。」と言って写真を提示する。

発問1 店員さんはどうしてわざわざスプーンを差し込んだのでしょうか。

※その行為の背後にある、お客さんに喜んでもらいたいと思う気持ちや、おいしいトーストへのこだわり、仕事へのプロ意識などに気づかせたい。

発問2 この学級でも、ちょっとうれしくなったという経験はありますか。

発問3 自分にできそうなことを一つ選んで（考えて）みましょう。

ポイント

教師自身の日常生活で見つけた小さな思いやりの事例を教材にするのがポイント。そうすることで、身近な思いやりの行為を探してみようとする子どもたちの意識を高めることができる。